

### 第3章 先進事例及び問題事例

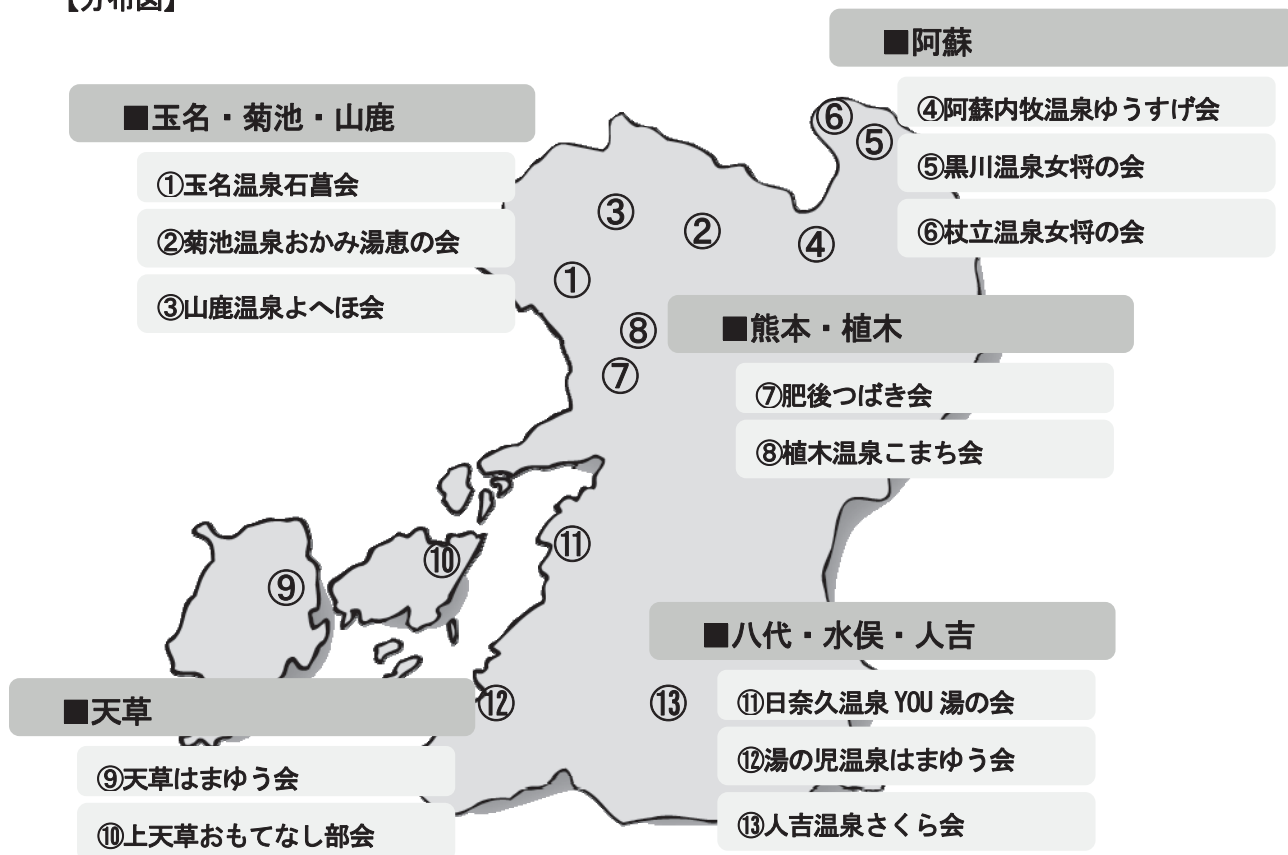
アンケート調査結果に基づき、先進的な取り組みを行っている「女将の会」に対して、訪問調査を行い、以下5ヶ所の先進事例について報告する。

#### 熊本県地域「女将の会」一覧

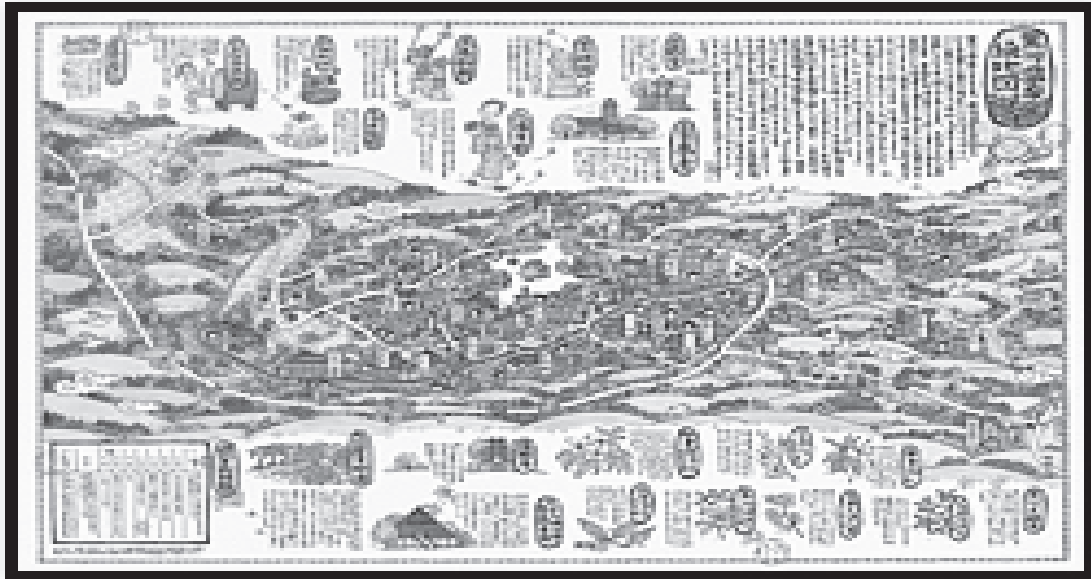
| NO | 名称          | 会員 | 事例紹介 |
|----|-------------|----|------|
| ①  | 玉名温泉石菖会     | 8  | ○    |
| ②  | 菊池温泉おかみ湯恵の会 | 6  |      |
| ③  | 山鹿温泉よへほ会    |    |      |
| ④  | 阿蘇内牧温泉ゆうすげ会 | 9  | ○    |
| ⑤  | 黒川温泉女将の会    | 22 | ○    |
| ⑥  | 杖立温泉女将の会    | 18 |      |
| ⑦  | 肥後つばき会      | 14 | ○    |

| NO | 名称            | 会員 | 事例紹介 |
|----|---------------|----|------|
| ⑧  | 植木温泉こまち会      | 9  |      |
| ⑨  | 天草はまゆう会       | 8  |      |
| ⑩  | 上天草おもてなし部会    | 15 |      |
| ⑪  | 日奈久温泉 YOU 湯の会 | 6  |      |
| ⑫  | 湯の児温泉はまゆう会    | 25 |      |
| ⑬  | 人吉温泉さくら会      | 11 | ○    |

#### 【分布図】



## 1. 黒川温泉観光旅館協同組合女将の会



黒川温泉観光旅館協同組合 HP「黒川温泉マップ」より引用

### (1) 黒川温泉の概要

黒川温泉は、熊本県の東北部の阿蘇郡南小国町に位置し、緑と水がきれいな小さな温泉地で、数十年前までは阿蘇の山奥で地図にも載らない衰退の一途をたどるひなびた温泉地でした。

しかし、個々の旅館の危機意識から、地域の素朴な風情を活かすための植樹や個性的な「露天風呂の開発」などの旅館再生への努力や「入湯手形」を始めとした黒川温泉観光旅館協同組合（以降、黒川温泉協同組合と称す）の地域の強みを活かした企画力。また、旅館のみならず地域住民が一体となった「地産地消の推進」などの地域活性化への取り組みで、今日では黒川温泉は、阿蘇の山奥で雑木林に囲まれた‘いで湯の里’として、また、素朴で美しい日本の風情を残した温泉地として人々を魅了し、国内でも有数の「ブランド力」がある人気温泉地となっている。

### (2) 黒川温泉観光旅館協同組合‘女将の会’の概要

この黒川温泉の再生の一翼を担ってきたのが各旅館の女将さんやそこに働く女性、さらに地域の女性たちのパワーである。

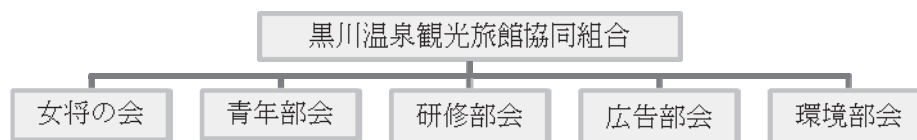
ここにご紹介する女性パワーは黒川温泉旅館（24軒、22事業体）の「黒川温泉観光旅館協同組合女将の会（以降、女将の会と称す）」です。

「女将の会」の特徴は、22事業体旅館の全員が会員となっており、会長と副会長の2名が組織運営に携わっている。また、会員から会費は徴収されておらず「入湯手形」などの収益源を持つ黒川温泉協同組合の運営予算で活動されている。

「女将の会」の女将さん方は地元出身者で、お互いが古くからの知人であり、気心も知れている。

のでコミュニケーションが取りやすく一体的な協力体制が図れるなどの特徴がある。同会は黒川温泉協同組合の下部組織として「青年部会」「研修部会」「広告部会」「環境部会」と共に置かれ、各部会との連携のもとで活動してすでに20年以上を経過している。

・黒川温泉観光旅館協同組合組織図



・黒川温泉観光旅館協同組合女将の会メンバー

|    | 旅 館 名          | 露 天 風 呂             |
|----|----------------|---------------------|
| 1  | 旅館 山みず木        | 幽谷の湯、風人の湯、森の湯       |
| 2  | 旅館 こうの湯、ふもと旅館  | 森の湯、立ち湯、もみじの湯、野天の湯  |
| 3  | ふじ屋、 別館 お宿のし湯  | 千の湯、千壽の湯、野天の湯       |
| 4  | 旅館 奥の湯         | 奥の湯、洞窟風呂、川風呂        |
| 5  | 御客屋旅館          | 代官の湯、姫肌の湯           |
| 6  | 旅館 湯本荘         | あじさいの湯、かじかの湯        |
| 7  | 旅館 壺の井         | 木立の湯                |
| 8  | いこい旅館、 お宿 野の花  | 美人の湯、滝の湯、ぎんねずの湯     |
| 9  | 旅館 わかば         | ひょうたんの湯             |
| 10 | 夢龍胆、 夢龍胆 花泊まり  | 花泊まりは内湯のみ、龍胆の湯、天女の湯 |
| 11 | お宿 玄河、 湯の里 和らく | 玄河は内湯のみ、野天の湯、穴湯     |
| 12 | やまびこ旅館         | 仙人風呂                |
| 13 | 黒川荘            | びょうぶの湯、観音の湯、切り岩の湯   |
| 14 | 旅館 にしむら        | 地獄の湯                |
| 15 | 源流の宿 帆山亭       | 客室露天風呂              |
| 16 | 旅館 南城苑         | 星の湯、月の湯             |
| 17 | いやしの里 樹やしき     | 満天の湯、華の湯、立ち湯        |
| 18 | 旅館 やまの湯        | こだまの湯               |
| 19 | 和風旅館 美里        | 美郷の湯                |
| 20 | 新明館            | 岩戸の湯、洞窟風呂           |
| 21 | 湯峡の響き 優彩       | 溪流の湯、樹彩の湯           |
| 22 | 旅館 山河          | もやいの湯               |

順不同

### (3) 女将の会の活動

#### ① 地産地消活動

「女将の会」は、黒川温泉協同組合及び各部会との定例会（八日会）でのお互いの意見交換や提案を通して、これまで地域住民、特に農家の方々の地元生産物の活用や南小国の総合物産館「きよらかアサ」との産品開発の連携、また、それらを活用して旅館の板場さんの協力を得ながら地元ならではの「安心」、「安全」な料理メニューの開発を行い、開発・採用した料理をそれぞれの旅館でお客様へ提供する「地産地消の推進」活動を行っている。



#### ② 研修活動

黒川温泉旅館では、「女将の会」の構成員が高齢化しており、徐々に若女将への承継が進んでいる。承継される若女将には地元以外の出身者も多く、また、従業員や住民などにも地元の南小国町や黒川をよく知らない方々が増加している。そのような方々が、黒川温泉や周辺地域を訪れるお客様を接客する機会が増えつつある。

温泉旅館の命は‘おもてなしの心’であり、それを実践できる源は女性パワーと考え、黒川温泉協同組合の研修部会などの協力を得て、より地元を知ってもらうためにマイクロバスを使った‘地域巡回’を始め、各旅館の‘露天風呂体験’などの体験や「黒川温泉協同組合事務所‘風の舎’」の下にある集会場（べっちゃん館）での‘おもてなしセミナー’や‘地元産品開発’などを行い‘おもてなしの質’の向上に努める研修活動を行っている。

#### ③ 情報発信活動

女将さん曰く、「それぞれの旅館や住民が、訪れるお客様に違った内容をお伝えしたのでは黒川温泉の信用はできてこなかったと思います。」

黒川温泉ブランドは、この地域一体となって統一された情報発信が今日の黒川温泉ブランドが定着した大きな要因になったと考えられる。

「女将の会」では、各旅館の女将や従業員が同じ言葉で、同じ内容をお客様へお伝えできるように「研修活動」を通して教育・育成するとともに地元の住民とも密にコミュニケーションを図り、お客様へ統一された情報を地域で一体となって発信できるように推進している。



#### (4) 現在の取り組み

##### ① 環境保護活動（EM菌）

「女将の会」では、黒川の環境を守る取り組みとして、廃油せっけんやエコバック作りを行ってきた。現在は環境保護活動の一環として、素朴で美しい黒川温泉の風情を後世に伝えるため、温泉街の中央を流れる筑後川の源流を浄化する活動を地域が一体となって実施している。

その浄化に使われているのがEM菌といわれる有用微生物群である。

##### 1) 環境保護活動の背景

筑後川は福岡県筑紫平野の中央を流れ、その流域は熊本県、大分県、福岡県、佐賀県の広大な地域を潤して有明海に注ぐ九州随一の一級河川です。その源流は南小国町の阿蘇外輪山といわれ、その支流が黒川温泉街の中央を流れ、田の原川で合流して南小国町の田畑を潤している。

数年前に地元農家の方々から黒川温泉を流れる清流が汚れてきているとの指摘があり、日頃何気なく垂れ流している生活用水が、清流を汚し環境を汚染している原因の一つであることを知った。そこで地元農家の方々から畑の土壌改良に活用していたEM菌と研究者の紹介を受け、研究者を交えて一部の女将さん方でEM菌の勉強会を始めた。

3年前にEM菌の「どろ団子」を作り、源流の上流に流すことから始めたのがきっかけとなった。

黒川は、かつては多くの源氏ホテルが乱舞し、素朴な温泉街の美しい夏の風情となっていたが、近年ではホテルの生息が少なくなり上流の一地域のみとなっていた。EM菌を活用して、源流から黒川温泉街の中央を流れる支流や田の原川がホテルの乱舞する美しい風情のある温泉地へ変貌することを目指して「女将の会」を中心として地道な努力を重ねている。

##### 2) 活動状況

「どろ団子」による浄化活動は、「女将の会」だけでは困難な面が多く第二回目の浄化がなかなかできないでいる。しかし、日頃の生活用水の浄化は地道な努力で可能であることからEM菌の勉強会（月一回実施）への参加を各旅館や住民へ働きかけ、現在では各旅館の厨房やトイレなどの清掃、また住民の家庭排水の浄化にも利用して頂いている。

環境保護の活動は即興性があるものではなく、将来を見据えて継続できる活動である必要が高い。その認識のもとで学校等にも働きかけ生徒の環境学習の一環として、各家庭や旅館で出た「米のとぎ汁」をペットボトルに入れて学校へ持ち込み、学校でEM発酵液を作り、プールの浄化や教室、トイレなどの清掃に活用して頂いている。

○EM菌の作り方（黒川温泉観光旅館協同組合女将の会研修資料より）

##### 【使用材料】

米のとぎ汁（濃いもの） 2ℓ（ペットボトル）

|         |                   |
|---------|-------------------|
| EM菌     | 20cc（キャップ約3杯）     |
| 糖蜜又は、砂糖 | 20cc（慣れるまでは、少し多め） |

#### 【作り方】

①ボウルに入れてよくかき混ぜる。

②漏斗<sup>じょうご</sup>を使ってペットボトルに入れる。

③しっかりと蓋を閉めて密封状態にする。

（注）ペットボトルが膨らんでいきます。開けたり、閉めたりしてはいけません。

④暖かいところにおいて、4～7日で出来上がり。

⑤出来上がったら、容器（スプレー）に入れて使用する。

（注）7日間くらいで使い切ってください）

⑥酸っぱい匂いがしたら、酸化して失敗だと思って下さい。

（少しEM菌を入れて、排水に捨てて下さい。）

環境活動は、植樹や露天風呂開発など男性パワーを必要とする温泉地の箱モノとは違い、お客様の満足を高めるための‘おもてなし’の大切な運動と考えられ、継続力ある女性パワーが発揮しやすい分野である。このことから黒川温泉では「女将の会」が中心となって地元の主婦を巻き込み、子供のころからの地道な環境保護活動を推進することで、将来を見据えた環境浄化が更に黒川温泉街の風情を高めていくものと考えられる。

#### ・EM菌（有用微生物群）の概説

EM菌は、琉球大学農学部 比嘉照夫教授が1982年に土壌改良など農業分野での利用を主な目的に開発された‘有用な微生物が集合された’ものです。形態は黒または茶色の液体状で、液中に複数の微生物を共生させた微生物の集合体です。

通常、微生物は単一体として扱われますが、この複数の微生物の集合体である点がEM菌の最大の特徴となっています。

私たちが健康診断を受けた際、「善玉菌」と「悪玉菌」という用語を耳にします。「善玉菌」は、私たちの身体の中で繁殖しようとする「悪玉菌」の活動を抑さえ込み、身体を健全な状態へ整える働きを持っています。この「善玉菌」の役割をするのがEM菌です。

EM菌は、食品加工に使われる安全で有用な微生物種類（乳酸菌、酵母菌など）ばかりで、人には無害でありその上汚れやにおいの元を分解する力もあり、水質浄化に役立つとされて各地の地方自治体や学校、企業等で河川などの水質改善に利用されています。

EM菌の使用方法には、「①水で希釈する」、「②米のとぎ汁で発酵させる」、「③糖蜜等を加え活性化させる」などの方法があると言われます。

（ウィキペディア「フリー百科事典」及びEM販売エコマートHPより引用・加筆）

## (5) 商品開発活動（消臭袋の開発）

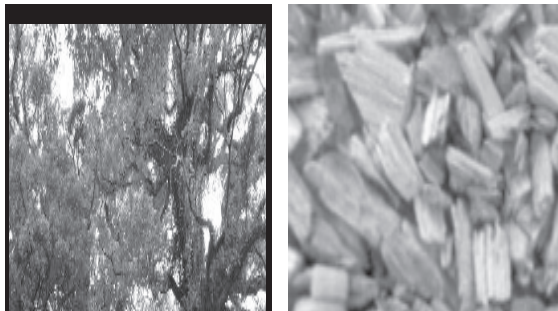
最近「女将の会」で商品開発に取り組んでおられるものに「消臭袋」がある。

### ① 商品開発の背景

黒川温泉は山奥にあるためムカデやゴキブリなどの害虫並びにイタチやモグラなどの害獣等も多く、その駆除に頭を痛めておられたところ、楠（樟）のチップに防虫効果があるということを知り、楠チップを取扱う会社（福岡県）を訪問されて旅館の厨房や外庭などに小さな穴を開けたペットボトルなどに入れ置いたところ高い効果が表れた。

また、楠はかつて「天然樟脳」として防虫効果だけでなく、芳香剤や消臭剤としても使用されていた。

「女将の会」では、お客様の‘おもてなし’の一つとして旅館のお部屋の芳香剤として森林浴効果を高め、また、お下駄箱の消臭やお客様の靴の消臭剤としても活用できると考えたのがきっかけとなった。



左；熊本県藤崎台の楠群（天然記念物）

右；楠（樟）のチップの拡大写真

### ② 活動状況

「楠チップ」の商品開発は、現在各旅館のお部屋の芳香剤として、またお客様の靴などの消臭剤などに活用されている。また、「楠チップ消臭袋」は、旅館などで不要となった着物などをリサイクルして各旅館の特徴ある外装袋を作り、その中にチップを入れる作業を各旅館の女将さん達で行っている。



旅館 山みず木HPより引用

現在は、美しく着飾った芳香剤が各部屋の卓上や壁掛けとして使用され、森林浴効果もお客さまから好評を得ているそうである。また、着飾った芳香剤は、現在はまだ一部の旅館でしか販売されていませんが近い将来には各旅館のお土産として、また黒川温泉ブランドのお土産の一つとして販売することも検討されている。

## 2. 阿蘇温泉観光旅館協同組合 ‘ゆうすげ会’



◆阿蘇市HP 観光マップより引用

### (1) 阿蘇市と内牧温泉の概要

阿蘇市は、阿蘇五岳を中心として、それを取巻く外輪山に挟まれた火口原にあり、その北部を中心に東部・西部の一部を含んでいる。

阿蘇市内の各所には旅館・ホテル、ペンション、民宿、温泉センター、公共の宿などが点在しその数80軒以上（阿蘇市HP）にのぼっている。

阿蘇市観光の中核を担っている「阿蘇市観光協会」は、平成22年9月に阿蘇市、大分県竹田市、宮崎県高千穂町の3観光協会で「真ん中九州 阿蘇・高千穂・竹田3県3地域観光協会連携協定」を締結し、県境を越えた広域の旅行企画を計画（連携企画第一段が平成22年11月実施される）されている。また、阿蘇市観光協会のもとで「阿蘇温泉観光旅館協同組合（以降、阿蘇温泉協同組合と称す）」は、平成21年11月に「第三種旅行業」を取得し、阿蘇市に宿泊したお客様を対象として阿蘇の魅力をいろいろな角度から紹介する‘阿蘇カルデラツーリズム’を実施し活発な活動を行っている。

阿蘇市の中でも内牧温泉は、阿蘇外輪山の展望所‘大観峰’の眼下に広がる阿蘇火口原エリアで最も集積がある温泉地で、夏目漱石の小説『二百十日』にも登場し、与謝野鉄幹・晶子夫婦や種田山頭火、吉井勇など多くの文化人が訪れ、記念館や文学碑、歌碑がある古くからの温泉地で大型ホテルや旅館、民宿、町湯など大小の温泉施設が30軒余りある。

## (2) 阿蘇内牧温泉女将の会「ゆうすげ会」の概要

阿蘇市内牧温泉の活性化の一翼を担ってきたのが内牧温泉及び周辺のホテル・旅館の女将さんで構成された「阿蘇温泉観光旅館協同組合女将の会「ゆうすげ会」（以降「ゆうすげ会」と称す）」である。

「ゆうすげ会」は、内牧温泉の女将さん有志で任意に設立されて4年目で、「熊本県旅連女将の会」14団体の中でも新しい女将さんの団体です。昨年度から「阿蘇温泉協同組合」の組織の一部会として活動を行うようになった。

現在「ゆうすげ会」の会員は内牧温泉の女将さんが主体となって9事業体で構成されているが、阿蘇市内には内牧温泉に限らず周辺の赤水地区や坊中地区などかなり広範囲にホテル・旅館が存在している。これからの阿蘇市全体の観光の活性化には、更なる女性のパワーを結集する必要も高く、阿蘇温泉協同組合員ホテル・旅館25事業体の内で未入会の女将さんに「ゆうすげ会」への参加を呼び掛ける活動を行っている。

### ・阿蘇温泉観光旅館協同組合お女将の会「ゆうすげ会」会員（平成22年11月末現在）

|   | ホテル・旅館名       | 所在地          |
|---|---------------|--------------|
| 1 | 阿蘇プラザホテル望蘇閣   | 阿蘇市内牧 1287   |
| 2 | 阿蘇ホテル 一番館、二番館 | 阿蘇市内牧 129-1  |
| 3 | 蘇山郷           | 阿蘇市内牧 145    |
| 4 | 和風旅館 金時       | 阿蘇市内牧 1131   |
| 5 | 親和苑           | 阿蘇市内牧 1354   |
| 6 | ほこすぎ荘         | 阿蘇市内牧 415-10 |
| 7 | 阿蘇の司ピラパークホテル  | 阿蘇市黒川 1230   |
| 8 | 竜田荘           | 阿蘇市内牧 201    |
| 9 | 湯巡追荘          | 阿蘇市内牧 385-1  |

順不同

## (3) 「ゆうすげ会」の活動

### ① 地産地消活動

「ゆうすげ会」では、地元農家などの生産物の紹介・試食会などに参加し、地元生産物を板場さんと協力し、各ホテル・旅館の個性あふれる「安心」、「安全」な地元の料理メニューとして開発して宿泊客へ提供する活動を行っている。

### ② 阿蘇温泉観光旅館協同組合企画の推奨

「ゆうすげ会」は、阿蘇温泉協同組合の一員として平成22年度より阿蘇市観光協会や同組合が



企画するツアーやイベントなどを各ホテル・旅館に宿泊予約されたお客様の方に、阿蘇を満喫して頂く楽しい旅行の思い出作りのコーディネーターとして積極的にご案内し申込を推奨されている。

#### 旅行ツアー及びイベント例

##### ○阿蘇カルデラツアー

阿蘇のあらゆる角度からの魅力を活かした各種体験プログラムなど、年間（春、夏、秋、冬）を通して実施するツアーで阿蘇温泉協同組合が第三種旅行業を取得して第一弾として平成22年冬テーマから宿泊客を対象として企画したツアーです。

##### ●阿蘇カルデラツアーの4テーマ

- ・「観」（観て楽しむ。触れて楽しむ）
- ・「楽」（阿蘇を歩く。人とふれあう）
- ・「癒」（阿蘇を知る。心を癒す）
- ・「験」（本場直伝。楽しく学ぶ）



##### ○幻想的イリュージョン久住高原光ファンタジー

（真ん中九州 阿蘇・高千穂・竹田3県3地域観光協会連携企画）

久住高原の花畑の夜間照明を始め、竹田市の「食彩市」、幻想的な「竹灯籠」など冬の久住高原を満喫する企画です。

#### ③ 博多プロモーション活動への参加

平成22年1月5日～27日に福岡「博多座」で開演された『女将の花道～笑売繁盛物語～』で九州各地の温泉地（熊本県参加温泉地；阿蘇地区、人吉地区、玉名地区、天草地区等）の本物の女将さんが日替わりで舞台上上がって花を添える演出があり、内牧温泉女将の会（‘ゆうすげ会’）として参加して舞台で阿蘇や内牧温泉のPRとロビーで特産品の販売などを行い、来場者がお帰りの際には玄関でお見送りを行った。

#### （4）現在の取組み

##### ① 新商品開発への取組み

「ゆうすげ会」では、現在計画中的の新商品「阿蘇高原ダイエット村」計画の中心となるべく、同計画の全てを知り、お客様の新商品体験のコーディネーターとしての役割を担い。宿泊されたお客様に阿蘇を満喫して頂くとともに新商品に対する満足度が高い‘おもてなし’を実践するために日々努力をされている。

1) 新商品開発の背景

阿蘇市は「阿蘇くじゅう国立公園」を共通の観光資源とする周辺の観光地や地域住民と連携した複合的な取組みを実践し、お客さまにより長い時間を過ごして頂くための滞在交流型観光の拠点として国土交通省から「阿蘇くじゅう広域観光圏」として平成20年に認定され、その中核センターとして「阿蘇地域振興デザインセンター（以降、デザインセンターと称す）」が設置されている。

「デザインセンター」では、「阿蘇くじゅう広域観光圏整備計画」に基づき観光圏整備計画などを実施されている。

その一つに‘交流型健康サービスの開発’というコンテンツで、今回の新商品「阿蘇高原ダイエツ村」計画がある。



阿蘇くじゅう広域観光圏

阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町、大分県竹田市

2) 新商品とニューツーリズム

「阿蘇高原ダイエツ村」計画は、日本ダイエツ協会からの提案で、平地と阿蘇の高地差を利用した低酸素環境下での「高地トレーニング」などの運動で、平地で行うよりも高い運動強度を養うとともに血糖値が上がりにくい食品を組み合わせることで、宿泊参加者のダイエツと健康の維持・改善に貢献しようとする計画である。

この計画は、平成19年6月に策定された「観光立国推進計画」（国土交通省観光局）の中で新たな旅行として位置づけられている「ニューツーリズム」の考えた方とも合致するものである。

| 食 品 例                                                          |         | G I 値 |
|----------------------------------------------------------------|---------|-------|
| 穀物                                                             | 精白米     | 83    |
|                                                                | 玄米      | 55    |
| パン                                                             | 食パン     | 90    |
|                                                                | 全粒粉パン   | 49    |
| 麺類                                                             | うどん（乾燥） | 84    |
|                                                                | そば（乾燥）  | 53    |
| 野菜                                                             | ジャガイモ   | 89    |
|                                                                | さつまいも   | 54    |
| 果物                                                             | パイナップル  | 64    |
|                                                                | オレンジ    | 30    |
| 乳製品                                                            | アイスクリーム | 64    |
|                                                                | 牛乳      | 24    |
| ※G I 値は食品 100 g 当り、ブドウ糖 100 とした場合の血糖上昇率で、G I 値 60 以下が目安といわれます。 |         |       |



#### ニューリズムの定義

厳密な定義付けはなされていませんが、従来の物見遊山的な観光旅行に対し、「テーマ性」が強く、「体験型・交流型」の要素を取り入れた新しい形態の旅行を指すとされています。

(国土交通省観光局「ニューツーリズムの概要と環境庁の施策について」(平成22年1月14日資料3より抜粋)

「ニューリズム」は、観光立国推進本部第一回観光連携コンソーシアムで6つの取組み例があげられている。

- ①エコツーリズム
- ②グリーンツーリズム
- ③文化観光
- ④産業観光
- ⑤ヘルスツーリズム
- ⑥その他(長期滞在型観光等))

今回の「阿蘇高原ダイエット村」計画は、2泊3日の宿泊参加者を対象に宿泊期間中に2Kgのダイエットメニューを体験していただくとするもので、「ヘルスツーリズム」の一つの形態と考えられる。

#### ・ヘルスツーリズム

ヘルスツーリズムとは、観光連携コンソーシアムで定義されたように、人々の健康回復・増進・保持(以降、健康活動と称す)に繋がる新しい観光形態で、医療に近いものからスポーツ、レジャーに近いものまで様々な形態が含まれます。

#### ・ヘルスツーリズム例

●温泉療法 ●森林療法 ●海岸療法(タラソテラピー) ●医療観光(メディカルツーリズム) ●美容観光 ●禁煙観光など

### 3) 活動状況と女将さんの関わり

「阿蘇高原ダイエット村」の計画は現在(平成22年10月末)進行中で、宿泊客に体験して頂けるプログラムの単品メニュー案(【例】ゴルフ、ウォーキング、カヌー体験等)が揃ったところである。

今後は、単品メニューを組み合わせることで宿泊参加者のダイエットや健康維持・改善に適したコースの設定や各ホテル・旅館の「おもてなし」の質の向上と健康に良い提供料理の開発、お客様の募集方法等の課題も残されているが、これらも平成22年中には具体的なものとして整備

を終える予定となっており、平成23年初頭にはモデルコースの設定を終え、九州新幹線全線開業に合わせモニターツアーの募集ができるように進んでいる。

このような計画が進行の中で、「ゆうすげ会」の女将さん方は、宿泊参加者をお迎えする第一線のトップとして「阿蘇高原ダイエット村」計画の全てを熟知しておく必要が高く、平成22年には、提案者である日本ダイエット協会の勉強会（毎月一回開催）に参加し、同計画のメニュー内容などにも主体的に参画し、また、お客様の健康のインストラクターとしての知識の習得に励んでいる。

「ゆうすげ会」を始め、阿蘇温泉のホテル・旅館の女将さんは宿泊参加者の予約からお客様に適した体験コースの推奨や実体験コースへのご案内、お客様個別の提供料理の提案、健康管理のインストラクターとしての役割など「阿蘇高原ダイエット村」を満喫して頂くためのコーディネーターとして、質の高い‘おもてなし’を実践する女性パワーの中核となり宿泊・体験参加者へより満足度が高いサービスを提供することを目指して活動をされている。

### 3. 人吉温泉女将の会「さくら会」

人吉は九州の小京都とも呼ばれ、相良藩 700 年の歴史を持つ古くから栄えた城下町である。熊本県最南端の温泉と多くの歴史遺産を有し、県内でも有数の観光地としての地位を確立している。

さくら会は、人吉温泉内の観光旅館業者の女将さんたちが地域の活性化、景気浮揚を意図して立ち上げた団体であり、「会全体の平等な立場の維持」による運営により、着実に実績を積み上げている。

単純な寄り合い組織ではなく、その長きにわたる継続性や女性の立場に立った目線での企画・実行ができているという点で組織の成熟度は非常に高く、行政を始めとした他の関係団体等との連携は、他地域のモデルとなり得るものである。

元々、地理的な制約要因から、当地域における観光業者の危機感是非常に強く、九州新幹線の全線開通という大きなビジネスチャンスにおいても、いかに当地域への集客に結び付けるかが課題となっている。さくら会はその中心的なリーダーとして、様々なイベントや地域振興策に取り組んでいる。

#### (1) 結成の目的

- ①人吉温泉の活性化
- ②女性が活動することでイメージアップ
- ③人吉の誘客力の結束

#### (2) 構成メンバー

|    |                 |
|----|-----------------|
| 1  | 国際観光旅館 鍋屋本館     |
| 2  | ひとよし温泉 純和風旅館 芳野 |
| 3  | 人吉旅館            |
| 4  | 和風旅館・健康風呂 丸恵本館  |
| 5  | 御用蔵 しらさぎ        |
| 6  | 清流山水花 あゆの里      |
| 7  | 翠嵐楼             |
| 8  | 天然公衆温泉 あおやぎ     |
| 9  | 旅館 一富士          |
| 10 | HOTEL 朝陽館       |



さくら会の皆さん

### (3) 活動経緯

|             |                                                                                                                                                                           |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 6 年 10 月 | さくら会結成                                                                                                                                                                    |
| 平成 9 年      | 「人吉球磨はひなまつり」開始                                                                                                                                                            |
| 平成 10 年     | 「おひな御膳」会員施設で開始<br>会員統一名刺作成                                                                                                                                                |
| 平成 11 年     | 人吉便利マップ、宣伝用うちわ制作                                                                                                                                                          |
| 平成 12 年     | さくら会 WEB サイト制作<br>九州ひなまつり広域振興協議会に参加（現在も継続）                                                                                                                                |
| 平成 14 年     | 京都研修実施 「ひざかけ」「人吉温泉石けん」制作<br>さくら会共通お土産用紙袋制作                                                                                                                                |
| 平成 15 年     | 県観光連盟より観光功労賞受賞<br>ラフティング試乗会参加<br>人吉温泉水と馬油で「人吉温泉石けん」制作                                                                                                                     |
| 平成 16 年     | 沖縄への宣伝隊<br>女将おすすめの球磨焼酎キャンペーン実施                                                                                                                                            |
| 平成 17 年     | 「母から娘へ娘から母へ」の便りコンクール主催<br>人吉温泉マラソン大会実行委員会参加                                                                                                                               |
| 平成 18 年     | 人吉ロータリークラブより地域貢献賞受賞<br>地域の食材を活かした料理の勉強会実施<br>「女将おすすめの球磨の逸品」を選定                                                                                                            |
| 平成 19 年     | 市能力開発センター主催観光サポート養成コース講師派遣<br>名古屋、大阪方面へ宣伝隊<br>オリジナル和タオル制作（肥薩線百周年協賛）<br>ミニ芸能お披露目会の開催<br>がんばるさくら会のポスター制作                                                                    |
| 平成 20 年     | 下天草観光協会女性会との交流会<br>「外湯巡りプラン」「手ぶらでチェックイン」企画実行<br>ポッポ鍋開発、SL 御膳企画発売（SL 開通記念）<br>JR 九州取締役のおもてなし講演会主催<br>韓国の新聞に人吉の広告を掲載<br>人吉温泉観光協会より観光功労賞受賞<br>オリジナル白いエプロン制作<br>「ノスタルジック人吉」主催 |

さくら会では、約 16 年間の長きにわたり、様々な地域振興に貢献してきた。それは、まさに女性ならではの目線に立った具体的な活動であり、着実に地域社会にその軌跡を残している。

以下ではその活動の一部を紹介する。

#### (4) 活動内容

##### ① 「人吉球磨はひなまつり」

「人吉球磨はひなまつり」は、さくら会が最も力を入れて取り組んだ催しである。もともとは 2 月 3 月の閑散期対策として始めたイベントであり、球磨郡相良村の専徳寺の所有する約 1,200 体のおひな様の公開と、九日町商店街の協力を得て、店舗等へのおひな飾りを行った。

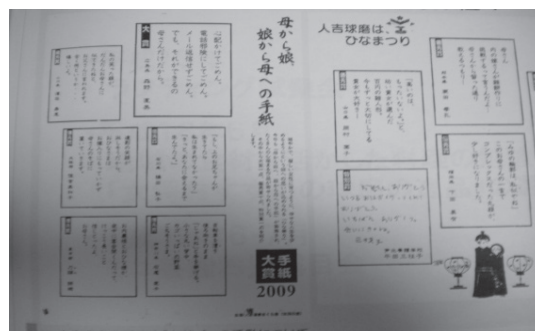
また、域内での様々なイベントと呼応し、地域全体での取り組みとして多くの観光客を呼び込んでいる。この時期、人吉球磨地区はひな祭り一色に盛り上がる。

##### 【各地のひなまつり会場】

|   |                   |                                                                                                                      |
|---|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 人吉クラフトパーク 石野公園    | <b>素朴なおひな様と、手作り工芸体験</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「土びなと全国の郷土玩具展」開催</li> <li>・「作るひなまつり」工芸体験</li> </ul>  |
| ② | ひとよしおひな通り 九日町・五日町 | <b>通りを華やかに彩る、受け継がれたおひな様</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着物来訪者への特典</li> <li>・舞妓はん体験（応募の上 15 名）</li> </ul> |
| ③ | ひとよしおひな通り 鍛冶屋町    | <b>風情漂う石畳の道で、ぶらりとおひな散策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おひなウンスンカルタ</li> </ul>                             |
| ④ | 専徳寺               | <b>愛娘への想いあふれる、ひなの寺</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古今ひな等約 3,000 体の展示</li> </ul>                          |

##### ② 「母から娘へ、娘から母への便りコンクール」

ひな祭り期間の新たな取り組みとして、「母から娘、娘から母への手紙大賞」を毎年募集している。全国各地や海外からも応募があり、大賞一点、特別賞一点、優秀賞十点、入賞三十点はパネルに仕立てて、会員施設の旅館に展示される。



## 2009 年度ひなまつりイベント

| 開催時期                        | 開催イベント                                                               |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 2 月 1 日                     | 人吉球磨はひなまつりオープニングセレモニー（神城文化の森、専徳寺）                                    |
| 2 月 1 日～3 月 21 日<br>（毎週土曜日） | おひなウンスンカルタおけいこ会（人吉市鍛冶屋町 ウンスンカルタの家）                                   |
| 2 月 1 日～3 月 31 日            | 押し花展示と体験（鍛冶屋町通り）                                                     |
| 2 月 1 日～3 月 15 日            | 専徳寺住職のパッチワーク展（歴史民俗資料館／山江村）                                           |
| 1 月 31 日～2 月 8 日            | 第 24 回にしき植木市（錦町）                                                     |
| 2 月 2 日                     | 谷水薬師大祭（あさぎり町）                                                        |
| 2 月中旬～3 月中旬                 | ポッポ一館ひなまつり（あさぎり町）                                                    |
| 2 月 14 日～3 月 15 日           | この町昔懐かしい写真展（九日町おひな通り）                                                |
| 2 月 15 日                    | 牛深ハイヤ踊りの祭典（五日町おひな通り）、第 6 回ひとよし春風マラソン<br>ぜんざいふるまい・しょうが湯（九日町おひな通り）     |
| 2 月 15 日～3 月 15 日           | 手作りのひなまつり展（湯前町）                                                      |
| 2 月 22 日                    | 第 35 回人吉梅まつり（人吉市）                                                    |
| 2 月 25 日～3 月 15 日           | 時代の着物展（九日町おひな通り）                                                     |
| 2 月 28 日                    | ひなまつりコンサート（石倉）                                                       |
| 2 月 28 日～3 月 1 日            | 石野公園ひなまつりイベント（人吉市/クラフトパーク石野公園）                                       |
| 2 月中旬～3 月中旬                 | ポッポ一館ひなまつり（あさぎり町）                                                    |
| 3 月 1 日                     | くま川下り川開き祭（人吉発船場）、たらぎひなまつりイベント（多良木町）                                  |
| 3 月上旬                       | 健康ウォーキング大会（相良町）、若宮歌と踊りの会（五日町おひな通り）<br>くじ引き大会（五日町若宮神社）                |
| 3 月土・日・祝日                   | 球磨川遊覧舟「梅花の渡し」（人吉市）                                                   |
| 3 月 3 日                     | 女性限定！温泉の無料開放（人吉市/九日町おひな庵）、くまむらのひなまつり（石倉）                             |
| 3 月 7 日～15 日                | えびす植木市（多良木町）                                                         |
| 3 月 7 日・8 日                 | 新春えびす市（多良木町）                                                         |
| 3 月 8 日                     | 春のコンサート（九日町おひな通り）                                                    |
| 3 月 14・15 日                 | 着物ぶらり歩き（九日町・五日町おひな通り）                                                |
| 3 月 15 日                    | 舞妓さん体験「あなたも京は舞妓はん」・日舞協会パレード（踊り歩き）（九日町・五日町<br>おひな通り）、伝統芸能ショー（九日町鍋屋本館） |
| 3 月中旬～3 月下旬                 | 湯山温泉桜まつり（水上村）                                                        |
| 3 月中旬                       | 湯樂里 11 周年記念イベント（湯前町）                                                 |
| 3 月 18 日～24 日               | 淡島神社春の彼岸祭（山江村）                                                       |
| 3 月 20 日                    | 相良三十三観音めぐり「春の一斉開帳」（人吉球磨 全 35 札所）やまえ願掛け巡り（山江村）                        |
| 3 月 22 日                    | おひな通りエンディング（九日町夫婦えびす神社）                                              |
| 3 月 28 日                    | おひなウンスンカルタマスターズ大会 午後 1 時～（九日町・五日町おひな通り）                              |
| 3 月 31 日                    | 人吉球磨はひなまつりエンディング「流しびな」（人吉発船場）                                        |



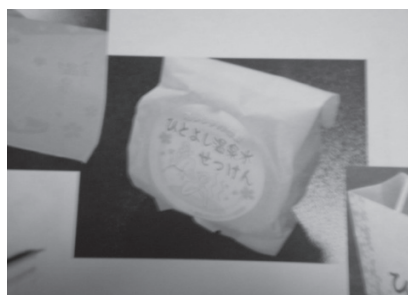
### ③「さくら会オリジナルグッズ」

人吉温泉全体としてのイメージ商品として、オリジナルグッズを開発、制作している。主な商品は以下のとおりである。

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ■人吉温泉石けん         | ■ひとよし湯情（薬用入浴剤） |
| ■和タオル            | ■雨傘            |
| ■おひな箸袋           | ■下駄            |
| ■人吉絵はがき          | ■そらぎゅう         |
| ■球磨焼酎古酒「ひとよし女将桜」 |                |

#### 【オリジナルグッズの数々】

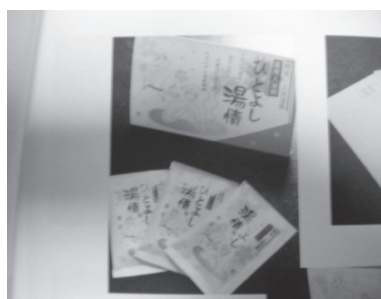
（石けん）



（紙袋）



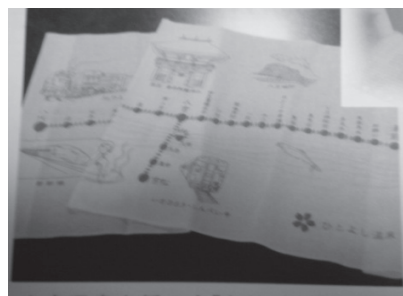
（入浴剤）



（下駄）



（和タオル）



#### ④ 「女将おすすめの球磨の逸品」選定会

魅力ある人吉球磨地域の食材を活かし、これらを使用した料理の勉強会を実施している。さらに、地区で生産された農林水産物を原料にした加工品を「女将おすすめの球磨の逸品」として選定している。

##### 【女将おすすめの球磨の逸品】一覧

|   | 地区    | 商品名        | 製造元          |
|---|-------|------------|--------------|
| ① | 人吉市   | みそ万十       | 濱田屋（菓子）      |
| ② | 人吉市   | 鮎の甘露煮      | 人吉水産商事株式会社   |
| ③ | 人吉市   | 鮎〆蒲        | 人吉水産商事株式会社   |
| ④ | 人吉市   | 椎茸しぐれ煮     | 立山商店         |
| ⑤ | あさぎり町 | 豆乳         | あさぎり町ふるさと振興社 |
| ⑥ | 球磨村   | 梨むすめ（万能たれ） | 物産館かわせみ      |
| ⑦ | 五木村   | 山椒味噌       | 四季の里         |
| ⑧ | 五木村   | 山うにと豆腐     | 有限会社五木屋本舗    |
| ⑨ | 山江村   | 栗の渋皮煮      | 山江村物産館ゆっくり   |
| ⑩ | 湯前町   | カリカリ大学いも   | 株式会社クマレイ     |

（選定品のポスターより）

## ⑤ 「SL ポッポー鍋開発と SL 御膳発売

平成 21 年度には SL 復活運行、肥薩線全線開通百周年記念での誘客の取組みとして SL ポッポー鍋を開発、SL 御膳として発売した。販売に先立ち、2 月 19 日には関係者を招いて披露試食会を開催し、マスコミにも大きく取り上げられた。

ポッポー鍋には、運行される SL8620 型の雄姿が描かれており、モロッコ料理などに使われ三角形のふたが水蒸気を効率的に循環させるタジン鍋がヒントとなっている。

鍋が温まってくるうち、てっぺんから蒸気が噴き出し、あたかも SL が走っているように見える。それぞれのポッポー鍋の中身は、各旅館がそれぞれ工夫を凝らしており、いろいろな味が楽しめるようになっている。

SL 御膳発売に際しては、「ご昼食プラン」「ご宿泊プラン」を企画してキャンペーンを実施、さくら会の会員旅館で提供している。

鍋の蓋上部から蒸気が SL のように吹き出る「ポッポー鍋」に、鮎の塩焼き等地元の食材を活かした昼食プラン

- 料金 2,625 円
- 時間 11:00～14:00
- その他 2 名様以上（要予約）



（写真は一富士旅館）

## ⑥ 人吉・球磨「焼酎三昧」の企画

情報誌、各蔵元、さくら会の協力による企画であり、宿泊の夕食時に地元人吉・球磨の蔵元推薦の銘酒を五種類セットにして、利き酒気分で飲みくらべることができるものである。顧客は其中で気に入ったものを飲むことができる。

店で薦める際も五種類を同時に出すことができ、さらにお客様自身に選んで頂ける自由度があるため薦めやすいことも利点となっている。



## ⑦ 「のすたるじっく人吉」(100年前にタイムスリップ)

肥薩線全線開通百周年記念として、平成21年11月25日に行われた「のすたるじっく人吉」にも参加した。この催しは、1日だけ人吉駅前を100年前、すなわち肥薩線開通当初にタイムスリップさせるものであり、

- ・昔の衣装を着た参加者による記念列車のお出迎え、お見送り
- ・「カフェさくら」でのおもてなし
- ・古民具展示、ウンスンカルタ実演、人力車体験、演奏等 を実施した。

さくら会では、統一ユニフォームとしての白いエプロンを制作、「カフェさくら」の運営を行い、観光客へのおもてなしに従事した。



## ⑧ 博多座への出演

人吉温泉のアピール活動は、広く県外でも行われている。平成 22 年 1 月 15 日には、博多座で公演中の「女将（おかみ）の花道～笑売（しょうばい）繁盛物語」にゲスト出演した。

この物語は、過疎化が進む村の旅館を舞台に、女優の浜木綿子さん演じる女将が再建に向けて奮闘するストーリーであり、舞台の最後に九州各地の温泉地から本物の女将が出演し、舞台上でそれぞれの地元を P R するという演出である。



## ⑨ 薬膳料理の提供

九州新幹線鹿児島ルート全線開業を控え、平成 22 年 10 月 29 日に薬膳料理の講習会を開いた。健康志向や食への関心が高まる中、観光客を薬膳料理でもてなそうとの趣向で、11 月から各旅館などでメニューに取り入れる。

市内の旅館で開かれた講習会には、さくら会メンバーの女将や調理長ら約 20 人が参加した。国際薬膳師の千代田路子さんの指導で、サンマの焼き物や地鶏と秋根菜の鍋、地元産の梨を入れた粥など、秋の食材をふんだんに使った 6 品を調理、試食している。



写真は読売新聞朝刊（H22. 10. 30）

⑩ その他いろいろな取組み

上記以外にも様々な企画を立て、会としての存在感をアピールしている。

- ・ラフティング試乗会（平成 15 年）
- ・ミニ芸能お披露目会（平成 19 年 6・7 月）

## (5) 今後に向けて

さくら会では、さらに人吉温泉をアピールするため、以下の目標を設定している。

### ① 連泊型観光を目指す

- ・じゅぐりつとウォーキングコース
  - ・じゅぐりつと自転車コース
- などの設定

「じゅぐりっと」とは、物の周囲をぐりぐりと一回りするという意味の人吉球磨地方の方言である。元々は「ぐるり」というまわり、めぐりとか、まわりを取り巻くという意味の言葉であるが、少々勢いのある動作にするための接頭語「じゅう」と格助詞「と（つと）」が組み合わされている。

## ② 水観光への取組みを計る

- ・ラフティング大会
- ・球磨焼酎の手造りコース
- ・鮎祭り
- ・温泉の利活用をする 等々

また、九州新幹線全線開通を契機として、他地域との交流、連携強化を推進している。他地域においても関西や海外といったターゲットは共通であり、互いにタイアップして地域の魅力を発信していく予定である。そのためのツールの一つとして、コンテンツを全面的に見直したホームページの再構築も準備中である。

こうしてみると、さくら会の活動の特徴として、地域ぐるみの活動が基本であることがよくわかる。これは結成の目的の一つである「人吉の誘客力の結束」が実践されていることに他ならない。

わずか10名程度の団体がいろいろなことをやろうとすると、そこには様々な障壁が存在する。特に資金の調達には相当苦勞されているようである。行政等の助成には限度があり、ほとんどがボランティアである。それでも活動が継続しているのは、地域への貢献という各会員の矜持があるからであろう。

また、強いリーダーシップを持つ会長とその支援態勢が整っていることも会の活動を支えている。「会全体の平等な立場の維持」を常に心がけているからこそ、各会員の結束力が保持できているのである。

さくら会に卓越した企画力と実行力があることは衆目の認めるところであろう。しかしながら、注目すべきはその継続性、持続性ではないだろうか。

女性だけの活動を続けていくためには家庭の協力が不可欠である。また、小さな旅館やホテルでは人手が足らず、会合の時間を捻出することすら難しいことも多いそうである。実績を残すことはもちろん大事なことであるが、それ以上にモチベーションを維持し、会を存続させていくことが結果的に実績を生み出していくものと思われる。



#### 4. 肥後つばき会（郷土料理を売り出す）

熊本市は近代的都市機能の集積や平成 20 年 10 月の富合町、平成 22 年 3 月の城南町、植木町との合併をはじめとする市域の拡大等によって、人口約 73 万人にまで成長し、平成 24 年 4 月には政令指定都市への移行を目指している。現在は、平成 23 年 3 月九州新幹線全線開業に向けて、本市のシンボルである熊本城を核とした中心市街地の活性化、熊本駅周辺の再整備に取り組んでいる。熊本市は水道水の 100%を地下水で賄う地下水都市でもある。その豊かな湧水をめぐらした桃山式庭園水前寺成趣園は熊本城と共に熊本観光の名所となっている。

熊本市では、九州の中央に位置する地理的特性を活かし、人、ものなど多様な交流を基調としながらまちの魅力と活力を創出し、日々の暮らしの中で全ての市民がしあわせを実感できるまちづくりに取り組んでいる



##### （１）肥後つばき会の経緯と現状

###### ■構成メンバー

丸小ホテル  
ホテル白金  
大丸旅館  
熊本グランドホテル佳松園

- ① 当会は熊本市観光旅館ホテル協同組合加盟の女将の会（小山玲子代表）である。平成 7 年の設立から 10 年以上経過している。会員は 14 名であるが、現在は実質 4 名で活動している状態である。その原因としては、組合加盟の旅館・ホテルの経営形態が都市型ホテルやビジネスホテルへの転換が進み、女将がいなくて多くなってきたこと。また、女将が子育てや仕事に忙しく会の活動に参加できないこと。最近は特に不況下で旅館経営は厳しく、人手を減らさざるを得なくなって、女将の負担が重くなってきたことが挙げられる。
- ② これまでの活動状況は、平成 12 年までは情報紙「かめりあ」を年 4 回発行していたが、広告協賛が得られなくなり資金難から中止せざるを得なくなった。
- ③ 修学旅行の誘致活動は現在も引き続き行っている。主に沖縄の旅行代理店にセールスしている。
- ④ 熊本県と連携した東京明治座や大阪 J R 各駅での宣伝活動に参加している。

- ⑤ 当会の現状は活動そのものが維持できるかどうかという感じであり、新たな事業に取り組む余裕はないのが現状である。熊本市の宿泊施設は10年前からビジネスホテルが増え、旅館からの業態変更や廃業が増えてきたことも会への新規参加者がいない状態となってきた一因である。

当会の現状は厳しいが、小山玲子代表の「女将の情報交換の場は必要である」との思いが現在の活動を維持している。

## (2) 九州新幹線開業に向けた取り組み～郷土料理を売り出す

郷土料理として「馬肉が中心の「肥後の味 桜しゃぶしゃぶ」を当会の4軒の旅館で売り出している。馬肉は桜肉とも言い、新幹線「さくら」とも桜つながりで、食べられた人には、より熊本が印象に残る料理となることを期待している。

### ■ 今後の熊本観光のあり方について

現状は熊本の魅力を上手にアピール出来てはいない。新幹線が全線開業しても熊本を素通りされるような状態では困る。熊本城を中心に更に整備し魅力アップをするなど拠点化も必要だと思っている。熊本城本丸御殿の復元により、平成20年には200万人を超える入場者があったが、平成21年には170万人台となり減少傾向にある。新幹線開業を目指して現在整備中の「熊本城桜馬場の観光施設」には大きな期待を寄せている。一方、熊本城から中心商店街への回遊性をいかに高めていくかが課題である。



### ■ 行政や商工団体の支援について

今後更に増える東アジアからのお客様に対応する必要がある。このため、言語、生活習慣、食文化を学ぶ場を設けるなどの支援がほしい。また、食材は可能な限り熊本産にこだわり地産地消を推進していきたいので、農業生産者との交流の場づくりを支援してほしい。

肥後つばき会の活動の現状には厳しいものがある。熊本市の都市規模と性格から旅館ホテル業界の業態変化もあって、女将の数が減ってきていること、さらに女将の忙しさも加わって、会の活動に参加できる人が少ない。今後は、女将だけでなく、おもてなしの最前線に立つ、旅館ホテル業界の女性の会として、再編し新たな活動を組み立てることも考える必要があるものと感じた。行政、商工団体との連携や支援策の検討も必要であろう。

## 5. 薬草料理の開発に取り組む一玉名温泉石 菖 会

### (1) 玉名温泉石菖会

#### ①千年の湯～玉名温泉

玉名温泉の歴史は古く、泉源が見つかったのは1300年も前のことであると言われている。かつては立願寺温泉と呼ばれ、大正半ばから戦前まで、三井三池炭鉱の操業が盛んな頃には、近場の温泉地として、その恩恵を大いに受けた。当時は40軒を超える旅館が建ち並び、九州では有数の温泉街として別府温泉と肩を並べる程であったという。1997年、石炭産業の斜陽化に伴い三池炭鉱は閉山、また、この間に車社会への移行、レジャーの多様化や分散化の進展なども相俟って、客数の減少に歯止めがかからず、現在は旅館11軒と減少した。現在の宿泊収容能力は約800人であり、大会や会議の誘致の側面からは、これ以上の減少は避けなければならない、何とかして現状を維持したいとの危機感がある。玉名温泉は湯量が豊富で、各旅館が自前の泉源を有しており、それぞれ旅館の泉質や温度、効能も違うことから、その特徴・サービスに磨きをかけ誘客に結びつけたいと努力をしている。

平成22年3月には九州新幹線開通に伴って「新玉名駅」が開業する。このチャンスに、玉名温泉の魅力を発信し、温泉街の活性化のみならず地域の活性化につなげたいとしている。



## ②女将 8 人の集まり「玉名温泉石菖会」

玉名温泉石菖会は玉名温泉観光旅館協同組合加盟の女将により、平成 14 年に設立された。

(代表 草村洋子会長)

### ■ 構成メンバー

|      |       |
|------|-------|
| ひのき荘 | さつき別荘 |
| 尚玄山荘 | 金峯園   |
| 竹水苑  | 白鷺荘別館 |
| 黄金館  | 八芳園   |



玉名温泉石菖会の  
メンバー

## ③ 活動の経緯、現状と課題

これまで活動状況は、おもてなしの研修会、経営講演会、料理の開発に取り組んできた。

特に、名物料理はできないものかと 4 年前から研究を始め、地元の食材を使った料理の開発に取り組んでいる。トマト、イチゴ、鷹取牛（地域名の和牛）などを使った 120 種類の料理の試作を行い、一部はすでに料理として提供されている。

「みかん弁当」の創作にも取り組んでいる。玉名市も天水地区を筆頭にミカンの産地である。お米をミカンの果汁で炊きあげるという独特のご飯とブランド化を目指す鷹取牛の牛肉を使用した郷土食豊かな弁当である。旅館での販売に加え、将来は駅弁としての販売を目指している。

しかし、地産地消という意味ではそれなりの効果も意義もあるが、他の温泉地との差別化するにはインパクトが足りないことも感じていた。いわゆる目新しさ、新規性が不足していることから訴求力が無いことをメンバー自身が感じている。

活動上の課題としては、旅館の女将は外に出て活動することが難しいのは玉名温泉の場合も他と同じである。特にリーマンショック後の経営は厳しく、最小限の人員で運営せざるを得ない状況にある。このため、女将の負担が大きくなり外の会合に出る余裕がなくなりつ

つある。女将の会をもっと活発にしたいが、現状の活動が精一杯である。

熊本の観光のあり方としては、「癒し」を中心据えた観光があり得るとの意見である。食べ物や、歴史、風景などの資源を癒しの感覚で構成した旅の提案ができるのではないかという会長の言葉であった。

忙しい中であっても、後述する薬草料理の開発は新幹線開業までの完成を目標に、女将たちが中心になって取り組んでいる。

#### ④ 九州新幹線の全線開業に向けて

平成 22 年 3 月に開業する新幹線「新玉名駅」を単なる通過駅にすることなく、いかに多くの人に利用していただくかは、玉名地域全体の課題であり、一方、その課題解決への取り組みは地域活性化、まちづくりの好機でもある。特に温泉旅館は交流人口増加という新幹線のメリットを直接受けるため、このチャンスを見逃してはならない。更に、宿泊客の増加は食材から土産物、飲食業界など地域経済への波及効果が大きく関係者の取り組みへの意識も高いものがある。そのためには、他の温泉地との差別化を図り、その特徴をアピールすることが不可欠であるとの思いが「玉名温泉観光旅館協同組合」をはじめ玉名市・商工会議所の共通認識として醸成されてきた。各旅館の個性に磨きをかけることはもちろんであるが、更に、玉名温泉全体のアピールをいかにするのか、その取り組みの核のひとつとなったのが玉名温泉石菖会である。



## (2) 薬草との出会い～薬草料理開発へ

### ① 薬草を地域資源へ

名物料理を考える中で、薬草生産者の会との連携が生まれ、薬草料理の開発へ踏み出すこととなった。

平成 17 年に薬草のまちづくりを合い言葉に活動を始め、「小岱山薬草の会」が平成 19 年 1 月に設立された。この会が設立される経緯の中では、崇城大学薬学部 村上光太郎教授との出会いが大きな契機となっている。最初に小岱山に自生する薬草が 150 種を数える程に多いことを調査発見し、地域住民の目を薬草に向けられたこと、次に、薬草栽培が地域資源となること、薬草を美味しく食べることのすばらしさ、薬草によるまちづくりの可能性などの考え方を学ぶ場を用意されたこと、今日の実践に繋がったものと思う。

村上教授の薬草を生かした地域づくりへの熱い思いが玉名を動かした。何か事が動くときはキーマンの存在が大きいということを改めて認識させられた。



村上光太郎教授

薬草の会は「薬草のまちづくりをコンセプトに、小岱山に自生する薬草を保護し、薬草の栽培・管理を通じ、健康増進及び地域や家庭への普及を図る。」ことを目的としている。平成 19 年に薬草栽培を始め、平成 20 年 10 月には薬草拠点「たんぽぽ」を開店。身近な薬草の写真や食べ方などをパネルで掲示、併設の薬草カフェでは、美味しい薬草料理を体験していただくため、薬草料理とタンポポコーヒーなどを提供している。



タンポポ



たんぽぽカツ

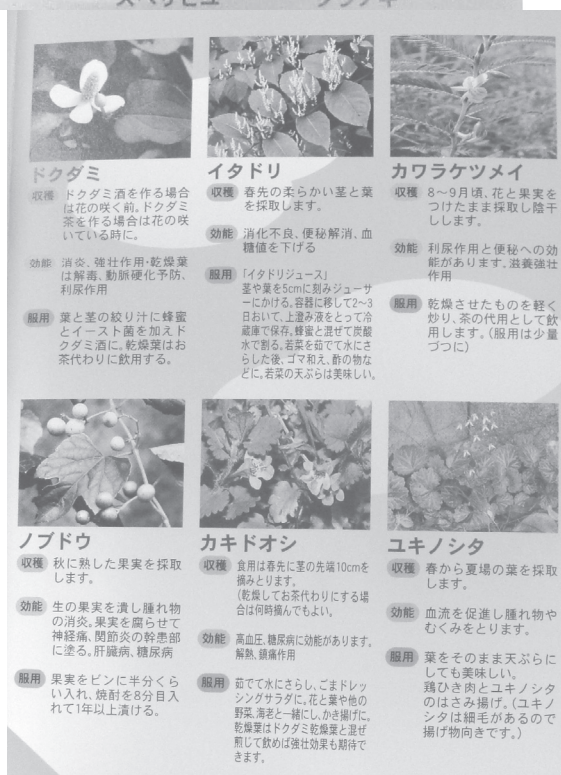


オオバコ



オオバコとエビのかき揚げ

薬草の会と玉名温泉石菖会の関係は2年前から玉名市役所の支援があり、薬草の会が薬草を提供することから始まった。薬草の会の活動が薬草観察会や講演会の開催、玉名地域のイベントに薬草料理を提供するなど市民の目に触れる機会が多くなるにつれ「薬草のまちづくり」の考え方も地域に浸透してきた。「薬草のまち」としてアピールしている地域が見当たらないことや温泉の効能と薬草料理の健康志向との相性の良さから、薬草料理の開発は温泉旅館のみならず玉名市のまちづくり事業のメニューとして位置づけられた。



出典) 小岱山薬草図鑑

発行：玉名市青年育成市民会議

監修：村上光太郎（崇城大学薬学部教授）

小岱山薬草の会



## ②薬草料理開発プロジェクト

玉名温泉は歴史と伝統のある地域資源であり、薬草は、これから新たな地域資源として育むという新旧の地域資源が「健康」をキーワードに融合し薬草料理開発への取り組みとなった。薬草のまちづくりを掲げる薬草生産者と特徴のある名物料理はできないものかと思案していた旅館側との考えが合致したのである。

平成 20 年夏、玉名商工会議所に「薬草と温泉の郷・玉名プロジェクト委員会」（草村幸寛委員長）が発足した。この委員会は「小岱山薬草の会」の活動をベースに薬草見学観光コースづくり、薬草料理や加工品の開発による地域活性化を目指している。

平成 22 年 10 月 20 日、「薬草と温泉の郷・玉名プロジェクト委員会」は薬草を使った試作料理 43 点を発表したと熊本日日新聞に写真付きで報道された。

この取り組みの中で、石菖会メンバーの役割は大きく、草村会長によれば、「料理については現場を良く知っている女将と料理長が一緒になって知恵を出すことに尽きる。」とのこと。忙しい女将の仕事をこなしながら、新幹線開業までには完成させ名物料理として売り込みたいとしている。

「薬草と温泉の郷・玉名プロジェクト委員会」は本年度、中小企業庁の「地域資源∞全国展開支援事業」の補助事業として認められた。これまでに至る玉名市・玉名商工会議所・熊本県玉名地域振興局などの様々な支援を得たことも大きな力になっている。

熊本日日新聞

平成 22 年 10 月 22 日朝刊

## 薬草料理43点試作

玉名商工会議所 玉名温泉の名物目指す

玉名商工会議所「薬草と温泉の郷・玉名プロジェクト委員会」（草村幸寛委員長）は20日、同市のホテルで薬草を使った試作料理43点を発表した。来年1月には完成させ、九州新幹線の全線開業時に名物料理として売り込む。同委員会は今夏発足。地元市民グループ「小岱山薬草の会」の活動をベースに、中小企業庁の「地域資源

∞全国展開支援事業」を使って地域活性化策を練っている。薬草地を歩く観光コースづくりや、薬草加工品の開発も進めている。この日披露されたのは、同薬草の会と旅館がオオバコやクズなどを試作したエビ入りベスト5を書き出した。招待された農工商関係者ら約70人は、お氣を話していた。（山口達也）



九州新幹線開業をにらんで薬草と温泉による町づくりを進めるために玉名市の温泉旅館などが試作した薬草料理＝同市の白鷺荘別館

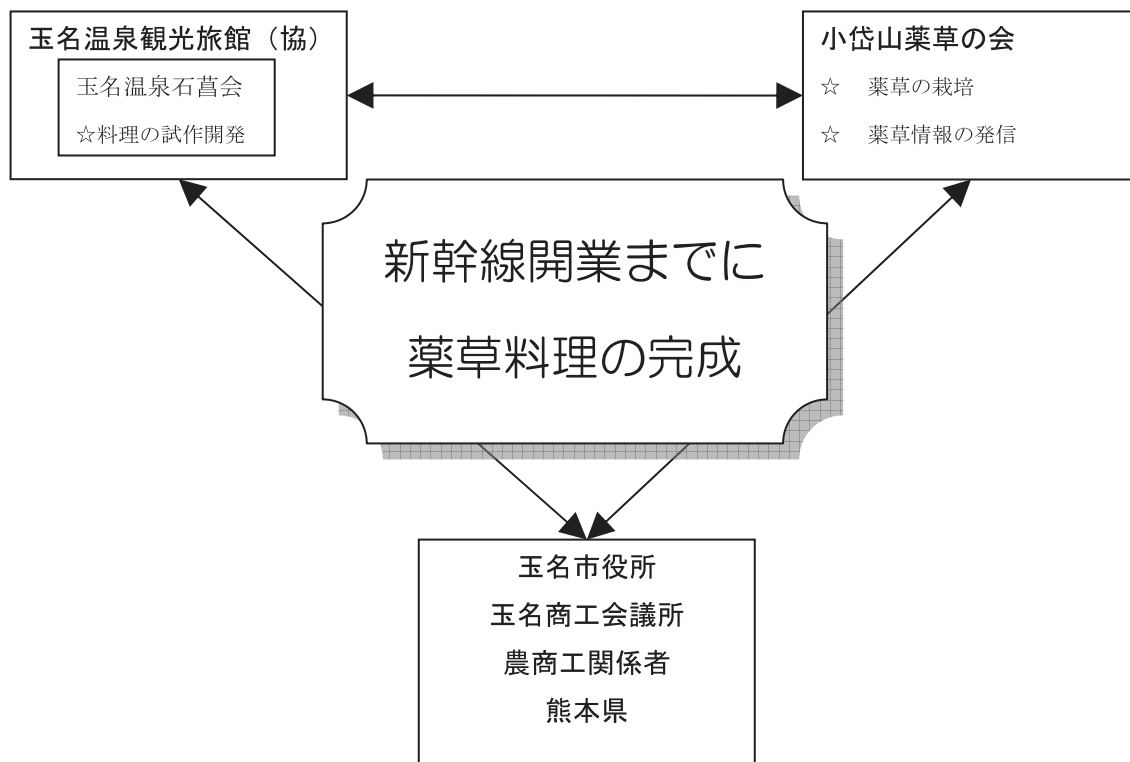


おおばこのミンチ揚げ



葛の花甘エクス梨ゼリー

☆ プロジェクトの体制図



小岱山薬草の会  
イベントでの会員

### (3) 今後に向けて

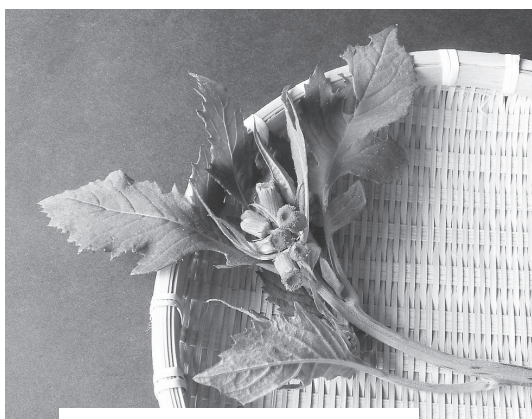
玉名温泉の新幹線開業後の方向性としては、癒しと健康をキーワードに考えているとのことである。現在開発中の薬草料理は温泉の効能とともに健康志向の客層への訴求力は強いと期待できるが、定着には相当の時間を要し、最終的にはクチコミが一番の宣伝であるので粘り強く続けるのがもっとも大事なことでありとされている。薬草料理の延長線上には薬酒特区の指定を目指す考えもある。更に、玉名市唯一の大学である九州看護福祉大学との連携による温泉とリハビリ、鍼灸、を組み合わせた提案ができるのではないかと考えもきいた。ヘルスツーリズムの取り組みは温泉地に多いが、玉名温泉は地域の資源を生かし、地域の連携の中から特徴を創り出すという考え方である。

地域の資源にこだわる、あるいは地域の弱点を利点に変える発想や、地域全体が潤うような事業を考えたいとの言葉を耳にし、郷土愛の強さから、今後どのような取り組みが生まれるか楽しみである。

薬草を地域資源にというキーパーソン、崇城大学 村上教授の存在、その指導を受け、実践している「小岱山薬草の会」宮永マス子会長はじめメンバーの熱意、玉名市や商工会議所の支援体制も整っており、地域の連携がしっかりできあがっている事にも見逃せない。

薬草料理の開発には薬草の生産者、温泉旅館の関係者、行政や農商工関係団体の関係者など地域の多くの方々が関係している。いわば地域あげての連携による新商品開発であると言える。

このように玉名温泉石菖会は、薬草料理の開発、みかん弁当の創作について、大きな役割を担っている。料理はお客様に提供し、喜ばれて、その価値が認められたと言える。今後、実際にお客様に料理やサービスのおもてなしをする女将の役割は更に大きくなる。



ベニバナボロギク



ベニバナボロギクの細巻